

Q18 会話が成り立たず、自分だけが一方的にしゃべってしまいます。また、見たままを言葉に出してしまい、トラブルになります

【考えられる背景】

- コミュニケーションに課題があり、自分の興味関心を優先し、相手の反応を受け止めながら会話することが困難なため、一方的にしゃべってしまう場面が多くみられる
- 相手の気持ちを推察することや、他者の立場に立って考えることが苦手なため、思ったことをそのまま言葉に出してしまう

【支援への手がかり】

☆ 会話技能の向上

話し手との距離の取り方や声の大きさ、自分の興味だけで話を進めないことを事前に約束すること等が大切です。話しかけるとときには相手に近づき、「〇〇さん（相手の名前）」「あのね」と呼びかけることや、相手が話をしている途中で話したくなったら、「話していいですか？」という等のルールを教えるようにしましょう。

☆ 適切な話題

会話はその話を共有することで進んでいき、いわば、言葉のキャッチボールが必要です。例えば、自閉症の子どもたちは、その楽しさを共有することが難しく、一方的に自分の興味関心のある話だけを続けてしまい、相手をうんざりさせてしまいます。そのため「虫の一生」「地球の進化」の話などは、博学な知識を持ち、びっくりするくらい詳しい話ができるのに、こちらの質問には答えることができないという状況がみられます。本人の興味関心があることを共有していきながら、本人が答えられるような質問をし、話題をふくらませていき、やりとりの楽しさを味わわせることが大切です。

☆ ソーシャルスキルを身につけよう

友だちの失敗をしつこく指摘したり、人の気にしていることを言ったりすると人間関係もぎくしゃくしてしまいます。ロールプレイをしながら、相手はどんな気持ちでいるのか、この状況で言うてはいけないことなどを覚えていくことも必要です。また、表情の絵を見て表情をまねたり、感情を言語化することも、人の気持ちを理解することにつながります。教師との間で練習を行いながら、次第に小集団でのやりとりにつなげて、ソーシャルスキルの向上を図りましょう。

